

平成18年度教員個人評価の集計・分析

シンクロトロン光応用研究センター

1. 個人評価の実施状況

1) 対象教員数は5名

個人評価実施者数は5名

実施率は100%

2) 教員個人評価の実施概要（評価組織の構成、実施内容、方法など）

添付資料①センター個人評価実施規則

②個人目標申告書などのフォーマット

2. 評価領域（教育、研究、国際・社会貢献、組織運営、他）別の集計・分析と自己点検評価

(1) 教育の領域

1) 評価項目ごとの実績集計と分析は、センターの人員が少ないために統計的な意味をもたないために行っていない

2) 教育の領域における教員の活動評価集計と分析

教育、研究、国際・社会貢献、組織運営、のいずれの領域においてもセンター教員の活動レベルは高い

3) 教育の領域におけるセンターの自己点検評価

センター教員は、工学系研究科の電気電子専攻ならびに物理科学専攻の指導教官に配置されており、工学系大学院修士課程ならびに博士課程後期の学生を指導するとともに、学部4年生に対する卒研指導への協力も行っている。理工学部などの教育方針に協力しつつ、さらに学科や専攻を超えた広い視点を有する学生を育てるべく、教育指導している。大学院講義においては、e-learning方式を導入するなど、新しい教育方式の導入にも協力している。全学的な主題科目や電気電子工学科での学部生への講義や実験指導などの要請にも応えている。九州大学など他大学の学生や教員との交流も行っており、このような新しい方式で学生が育ちつつある。

(2) 研究の領域

1) 評価項目ごとの実績集計と分析は、センターの人員が少ないために統計的な意味をもたないために行っていない

2) 研究の領域における教員の活動評価集計と分析

教育、研究、国際・社会貢献、組織運営、のいずれの領域においてもセンター教員の活動レベルは高い

3) 研究の領域におけるセンターの自己点検評価

センターは、シンクロトロン光利用に関する世界的な最先端のビームラインを有しており、その光電子分光装置は、高エネルギー分解、角度分解、時間分解の性能を有する世界的に特色有る装置である。またレーザー 2 光子による高速時間分解光電子分光法は独創性が高い。これらについては専門性の高い国際会議で報告し、高く評価されている。

レーザーとシンクロトロン光の組み合わせによる新しい分光法の開発やそれを用いた励起状態の研究は成功裏に進んでおり、成果の一部は、世界的に評価の高い専門誌に発表している。さらに、各分野からの関心も高く、特別講演や特集記事、特別講義などの依頼が寄せられている。

半導体生成に関する成果は世界的評価が高く、厳しい査読のなされる論文誌に投稿し、毎年平均 10 報程度が掲載されている。

研究内容が高く評価されて、科学研究費補助金が採択されている。半導体デバイスの実用化を目指した研究開発が、NEDOプロジェクト（平成 17 年度産業技術研究助成事業）として進行している。文部科学省の地域連携融合事業「シンクロトロン光を利用した佐賀県との一体化による先導的工学的基礎研究」が平成 17 年から開始している。

(3) 国際・社会貢献の領域

1) 評価項目ごとの実績集計と分析は、センターの人員が少ないために統計的な意味をもたないために行っていない

2) 国際・社会貢献の領域における教員の活動評価集計と分析

教育、研究、国際・社会貢献、組織運営、のいずれの領域においてもセンター教員の活動レベルは高い

3) 国際・社会貢献の領域におけるセンターの自己点検評価

センターが高い研究レベルと活発な研究活動ならびに最先端のシンクロトロン光利用設備などを有することから、中国上海交通大学複合材料研究所、中国上海応用物理学研究所、韓国浦項放射光研究所、ロシアクリャトフ放射光研究センター、英国リバプール大学表面科学センターなどと、協力連携協定を締結している。

佐賀大学シンクロトロン光応用研究センターは、その経緯から分かるように佐賀大学の社会的貢献の証そのものである。センター教員ならびに協力教員は、自分達自身の研究だけでなく、佐賀県が進める九州シンクロトロン光研究施設整備事業において、佐賀県を支援してきた。また、その一方で、研究活動の成果の社会的文化的経済的な貢献も活発に行われている。

(4) 組織運営の領域

- 1) 評価項目ごとの実績集計と分析は、センターの人員が少ないために統計的な意味をもたないために行っていない
- 2) 組織運営の領域における教員の活動評価集計と分析
教育、研究、国際・社会貢献、組織運営、のいずれの領域においてもセンター教員の活動レベルは高い
- 3) 組織運営の領域におけるセンターの自己点検評価
センターは運営委員会に外部委員が参画しているとともに各種委員会には学外からの委員の協力を得ているなど公開性が高い運営が行われている。また、自己点検評価やセンターの外部評価などを行っている。